

一般質問の主題

一般質問の会議録全文は町のホームページから検索できます

議員が町の考えを問う

福井 和義

- 食物アレルギーへの対応
- PM2.5への対策は

荘子 敏一

- 学力向上の取り組みの成果
- 松伏町の長所を生かした農業を進めよ

川上 力

- ボランティア団体や自治会の育成・補助について
- 消防団の育成・資質向上について
- 老人福祉センター周辺の整備促進について
- 骨髄ドナー支援制度の新設を
- 市町村合併について

鈴木 勝

- 田島地区の土地利用計画の変更について
- 農地の集約について
- 自治会等振興助成金・魅力アップ事業について
- 町民の医療費削減問題

山崎 善弘

- 「音楽によるまちづくり」の推進
- 「川のまるごと再生プロジェクト」の行政、企業、町民、NPO等との協働による地域の活性化

松岡 高志

- 教育委員会の点検評価、学校評価報告の課題と対応について
- 超高齢社会に向けた地域医療の再生について
- 町の少子化対策について

堀越 利雄

- 将来人口と土地利用計画
- 高齢者の健康維持と生きがいづくり

佐藤 永子

- 町長の公約実現と町政運営について
- 越谷市、吉川市との合併について

長谷川 真也

- 小学校・中学校 校舎・施設問題個所を問う
- 自主防災組織の活動・防災対策
- 道路安心安全について問う
- 大型店舗・工事誘致について問う

佐々木ひろ子

- 健康問題
- 教育問題
- 耕作放棄地の早期解消の取り組み
- 高齢世帯への支援策と介護労働者への取り組み

広沢 文隆

- 特別養護老人ホーム増設で、安心して老後をすごせる町に
- 利用者の要望に応え、B&G体育館バドミントンコートを改善せよ

吉田 俊一

- 老人センターを中心とする旧金杉小エリアの一体管理を充実させ地域の憩いの場に
- 健康増進の取り組み充実を

鈴木 勉

- 路線バスの維持・拡充に向けた公費助成である補助金の新設について
- 障害者の人権侵害人事及びB&G海洋センターの体制弱体化・機能低下に対する任命責任とその対策について



福井 和義 (新政クラブ)

Q 食物アレルギーへの対応は

A 職員会議等で確認されている

問 東京都調布市富士見台小学校で、チーズなどに食物アレルギーがある5年生の女子児童が、チーズ入りの料理を食べ、30分後に体調不良を訴え死亡した。

町内の小中学校は、食物アレルギーの学校体制を緊急に確立する必要がある。教育委員会は、食物アレルギーについてどのような考えか。

答 教育総務課長 町内各学校には、保護者から児童生徒のアレルギー等に係る情報が記入された保健調査票がある。そして、食物アレルギーを含め健康上配慮を要する児童生徒は、職員会議や校内研修で確認される。

答 環境経済課長 町では、「広報まつぶし」や「町ホームページ」でPM2.5の周知をする。また、1日平均70マイクログラムを超えると予想される緊急時には、町防災行政無線、教育委員会から小中学校への連絡等で速やかにPM2.5の注意喚起を実施する。

PM2.5への対策は

問 偏西風によって中国から飛来するPM2.5は、九州地方だけでなく関東地方でも健康への影響が懸念されている。

また、PM2.5は、焼却炉からのばい煙や排気ガスなどが発生源とされている。町は、住民の健康を守るため、きめ細かい対応が必要ではないのか。



給食センターほほえみ

莊子 としかず (新自民クラブ)



Q 大消費地・東京に販売拠点を作れ

A 近隣市への販路拡大を目指す

- 問** TPPによる関税撤廃による松伏町の農業が受ける影響予測は変わっていないか。
- 答 環境経済課長** 町の農産品の9割を占める米は大きな影響を受ける。野菜はすでに関税がほぼ撤廃されており、競争力をつけているので影響はないと見込んでいる。
- 問** 松伏町の農業が他と比べて優位性が認められる点は、大消費地「東京」からの距離だ。この地の利を生かした農業を進めるべきではないか。
- 答 環境経済課長** 新鮮さが求められる野菜は、収穫されてから店頭並び消費者の手に渡るまで短くだけ良い。松伏町は非常に地の利がいいが、これを生かす流通や販路の確保が問題になっている。
- 問** 大消費地「東京」に販売拠点を持つ努力をしないのか。
- 答 環境経済課長** 近隣に80万人を超える市場があり、こちらの販路拡大に向けて開拓していきたい。
- 問** 都市型農業の一つで、近年、先端技術を利用する

植物工場が出現してきた。そのような都市型農業を営む企業の誘致をしたらどうか。

- 答 環境経済課長** TPP交渉の参加で、日本農業の抜本的な改革が議論されている。その1つに農業の工業化もあり、今後拡大するものと思われる。東埼玉道路や浦和野田線の整備計画が進む中で、田島地区の土地利用を検討しているが、企業誘致には植物工場も有力な選択肢の一つとして考えられる。



大正大学（巣鴨）に隣接して建つ南三陸町のショップ

川上 力 (公明党)

Q 骨髄ドナー支援制度の新設を

A 個別に対応しながら制度化も検討

- 問** 骨髄ドナー支援制度を新設し、ドナー登録者の経済的負担を軽減することで患者の命を救え。
- 答 町長** 制度として制定するのは時期尚早と考えるが、個別に対応しながら将来は検討したい。
- 問** 埼玉県取り組みである「わがまち防犯隊」の制度を活用しボランティア団体の支援を。
- 答 総務課長** 活動情報の収集に努め埼玉県のホームページで紹介することによって、皆様の労に報いていきたい。
- 問** ごみ集積場の衛生的な維持管理のため自治会や地域住民に防鳥ネットの配布をすべき。
- 答 環境経済課長** 町内における「ごみ集積所」は、現在832か所あり、今後の管理においても、利用者の方々のご協力で維持していただきたい。
- 問** 消防団の資質向上のため、先進地研修などに対しても町が補助を。
- 答 総務課長** 現在行われている研修に、積極的に参加してもらうよう、吉川松伏消防組合に働きかけ

をしていく。

- 問** 老人福祉センター周辺のビオトープや遊歩道、斜面林の一体的な整備促進を図れ。
- 答 まちづくり整備課長** ビオトープの老朽化したウッドデッキの早急な対応は困難であるが、現状を調査し老人福祉センターと一体化した利用促進を図るべく整備については今後研究していく。





鈴木 勝 (町民クラブ)

Q ジェネリックの更なる利用を

A 意思表示がし易くしている

問 松伏町ではジェネリック医薬品の利用が毎月県内上位を示しているが、医療費削減のため、更なる利用が必要である。

答 **住民ほけん課長** 保険証の発送時に「ジェネリック医薬品希望カード」を付けている。このカードを医療機関や薬局に提示することで容易に意思表示ができるようにしている。

問 「自治会等振興補助金魅力アップ事業」の使い方に柔軟性を示せ。

答 **総務課長** 7つの団体から申請が出された。その他複数の団体から補助金交付申請に対する相談を受け付けている。

問 5月末の受付期限であったが柔軟な対応をせよ。

答 **総務課長** 制度運用初年度なので、事前に相談のある申請案件については、柔軟な対応をしていきたい。

問 町長の3期目の公約に田島地区の土地利用計画の変更が述べられている。具体策を述べよ。

答 **企画財政課長** 次期総合振興計画の中で東埼玉道路、浦和野田線進捗状況を踏まえて、土地区画整理や、民間の活力を利用した開発行為の誘導など整備手法を検討するとともに、地元の合意形成を図り産業集積の促進やヒト・モノが集まる地域経済の活性化を図れるようにする。

埼玉県ジェネリック医薬品利用率24年の一部

ジェネリック医薬品利用率=ジェネリック医薬品処方数÷処方医薬品総数

	保険者名	5月診療	保険者名	6月診療	保険者名	7月診療
1位	松伏町	30,27	松伏町	31,04	ときがわ町	31,91
2位	鳩山町	30,27	ときがわ町	30,44	生越町	31,32
3位	ときがわ町	30,24	鳩山町	30,23	松伏町	30,88



山崎 善弘 (新自民クラブ)

Q 水辺回廊遊歩道健康づくりとは

A 健康ほど社会貢献はないと思う

問 町長の「健康づくり、水辺回廊遊歩道をつくり、松伏健康村をつくります」という宣言の内容は。

答 **町長** どなたでも健康でありたいと求めている。今回、川のまるごと再生プロジェクトで、古利根川に遊歩道が整備されることになり、そこを皆さんで歩くことにより健康を維持していただく。健康ほど社会貢献はないと思う。本人、家族、町にとっても町民の健康はすばらしい。

答 **まちづくり整備課長** 「川のまるごと再生プロジェクト」は埼玉県、市町村、地域住民の協働により、川の再生を実施する事業だ。平成24年度に大川戸地区、平成25年度から赤岩地区の遊歩道の整備を予定。町内既存公共施設へのアクセス向上と文化財、景観の良い場所に看板を設置し松伏のよいところをPRする。危険箇所解消として、遊歩道整備とあわせて下赤岩、弥生橋バス停の整備を予定している。利便性と安全性が向上する。

問 町で育った優秀な音楽家等をどう活かすのか。

答 **教育長** エローラ運営委員会等で、音楽の専門的な知識技能を活かす取り組みや、サークル活動人

口を増やし、音楽を聞く、親しむ、楽しむ人口を増やすことが大事。新たにやるのではなく、工夫してやっていきたい。いろいろな行事で音楽家が活躍できる、意図的な計画が必要だと思う。今後も音楽によるまちづくり推進のため努力したい。



遊歩道整備予定の大落古利根川 (下赤岩)



松岡 たかし (新自民クラブ)

Q 町の少子化の現状と対策は

A 子育て支援の環境整備を進める

問 町北部の少子化は深刻な状態である。金杉小学校の児童数はどのように推移していくのか。また、学校の小規模化による統廃合や通学圏、学力への影響についてどう考えるか。

答 **教育総務課長** 児童数は平成31年度には165人と予想される。課題はあるが、小規模校のよさがあり現在の状態を継続する。児童の成長に適度な競争意識は必要と認識しており、学習の場においてその意欲を喚起できるよう指導助言をしていく。

問 超高齢化社会を迎える町の地域医療・介護サービスの課題についてどう取り組むのか。

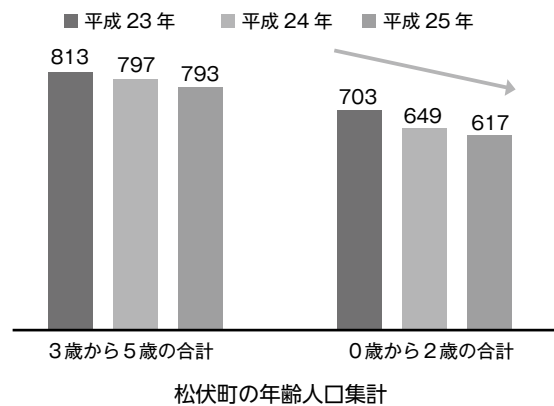
答 **福祉健康課長** 県の事業計画の策定で、地域医療課題への対応が為されると認識しており、町としては健康づくりの施策などに力を入れて行く。

問 「学校評価報告」の評価点、課題提起や意見をどのように学校運営に反映していくのか。

答 **教育総務課長** 評価の結果を重く受け止め、大きく隔たりのある評価項目については、校長のリーダーシップの下、対応策を推進していく。

問 教育重点施策の「防災教育の充実」が評価対象になっていないが、現状はどうなっているのか。

答 **教育総務課長** 安心安全にかかわる部分で評価されている。防災教育は学校の教育活動全体で取り組みを進めており、町内の各小・中学校では地震と火災を想定した避難訓練を実施している。



堀越 利雄 (町民クラブ)

Q 当町の将来人口の基本的な考えは

A 現状の人口数は確保する

問 第4次総合振興計画では、平成25年度の人口を3万5千人としている。現状と差異があるか。

答 **企画財政課長** 平成16年度以降自然動態、社会動態ともに増加率が減少傾向となり、平成21年度をピークに町の人口は減少傾向にある。

問 人口減少が町に及ぼす影響は財政力の低下につながり、地域産業の活性化の妨げ、住民サービスの低下が懸念される。吉川市は活発な土地利用計画をして、人口増が続いている。会田町政3期目の土地利用計画は。

答 **町長** 人口が減ることは自治体の力がなくなることにつながる。世帯数は確実に増えているが、1世帯当たりの人数が減っているため、人口増になっていない。今後、田島地区の新市街地には新しい土地利用計画をして、産業と世帯数の増加を打ち出して人口増につなげていく。

問 当町の将来人口に対する基本的な考えは。

答 **企画財政課長** 日本の人口動向については、国の機関である社会保障人口問題研究会が、50年後は

現在より32%減と推定している。当町の今後10年間は、東埼玉道路計画等を踏まえ、現状の人口数を確保することを基本に考えていきたい。



人口動向表示板



佐藤 永子 (新政クラブ)

Q 町長の公約実現とその取組は

A 3月の施政方針と同じである

問 5月の町長選挙が無投票となり、会田町長が3選された。選挙がなかったのが、選挙公報も発行されず、町民の多数は公約も政策も知りません。町政に対して無関心になるのではないかと。

答 **町長** 4年間の継続ですから、3月の施政方針と一致した政策である。行政説明会には多数の方々、関心のある人が来ている。

問 町政に関心のない人や自治会に入っていない人達にどのような方法を取り、共働の町づくりを進めていくのか。

答 **町長** 関心のない人に対しても、情報を共有するよう発信し、不利益にならないよう公平、公正な対応を図る。

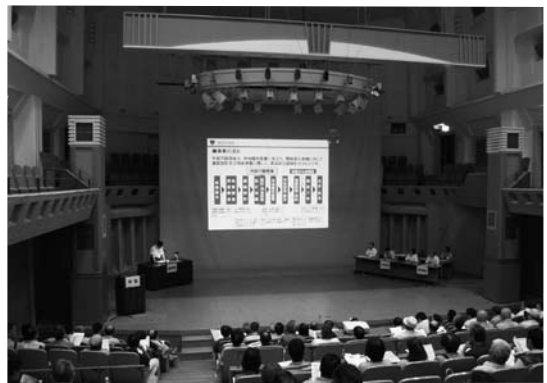
問 暮らし満足度一番のまちをめざし、その実現にどこに一番力を入れるのか。

答 **町長** 町の発展は道路網の整備である。町民の夢を叶えるため、東埼玉道路と浦和野田線や田島地区の土地利用に力を入れていく。

合併の見通しはいつか

問 会田町長の2期目の公約であったが、その実現のためどのような取組をしてきたのか。

答 **町長** 5市1町の首長が集まる会議で常々発信しH22年5月に合併しようと、年数は8年をかけてと、公約実現のため活動してきた。



東埼玉道路の地元説明会（エローラにて）



長谷川 真也 (町民クラブ)

Q 自主防災組織の活動、防災対策は

A 地域の支援体制の構築と充実

問 自主防災組織の強化に対し町の考えを問う。

答 **総務課長** 町防災訓練への参加や自主防災組織リーダー養成研修に参加していただくなど、今後も自主防災組織の設立を推進していく。

問 今後、新潟県湯沢町以外で他の市町村と防災協定を結ぶか。

答 **町長** 宮城県山元町に派遣した縁で、災害協定の締結に向け調整をしている。

問 安全な道路交通の確保で町民の方に協力を仰ぐ為、広報等でも積極的にPRし危険箇所等を把握すべき。

答 **まちづくり整備課長** 行政だけでは対応は難しいところがあり、町民の方の協力を頂きたい。速やかに道路の損傷箇所を町にご連絡いただけるような体制を作る為、広報誌等を利用したPR活動を行う。



平成24年度町防災訓練



佐々木 ひろ子 (公明党)

Q 風疹予防接種に公費助成をせよ

A 住民の負担軽減のため検討する

問 胃がんの原因、95%がピロリ菌によるものといわれている。検査を導入せよ。

答 **福祉健康課長** 厚労省の対応に注視する。

問 児童・生徒の問題行動に、町はどう対応するのか。

答 **教育総務課長** 県内中学校での問題行動は、前年比2割増加。小学校では2.8倍の増加で危惧される。町の暴力行為発生件数等の問題行為は、喫煙などがあり心配されている。校長研究協議会等に情報提供して、学校全体で組織的な生徒指導が実践されるよう指導、助言をしていく。

問 児童・生徒に問題があった時、人権擁護機関とも連絡をとるべきだ。

答 **教育総務課長** 人権擁護教育を推進する。

問 耕作放棄地再生利用緊急対策事業の5年目を迎えているが、町の取り組みはどうか。

答 **環境経済課長** 耕作放棄地対策協議会を組織し、年2回のパトロールで把握している。21年度から16.2haの放棄地がよみがえった。今後も努力して

いく。

問 高齢者の相談窓口の強化と孤独死防止対策の充実を求める。高齢世帯の状況把握をすべきだ。

答 **住民ほけん課長** 地域包括支援センターを強化し、見守り事業は、関係機関が情報を共有する。

問 介護職従事者に表彰制度を導入してはどうか。

答 **住民ほけん課長** 介護職員しっかり応援プロジェクトに注視する。

風しんのワクチン接種状況				
年齢	0~22	22~33	34~50	50~
生年月日	1990年4月2日以降	1979年4月2日~90年4月1日	1962年4月2日~79年4月1日	1962年4月1日以前
男性	医療機関などで個別接種2回、18~22歳は接種率低い	医療機関などで個別接種1回	接種なし	
女性		接種率が低い	学校での集団接種1回	

※年齢は2013年4月1日時点



広沢 文隆 (日本共産党)

Q 「特別養護老人ホーム」の増設を

A 県と調整を図りながら検討する

問 4月1日現在、町の65歳以上高齢者数は6665人。町「特養」新設の平成4年2006人から3.3倍に増加だが増設はない。定員74名の町「特養」の町民待機者数は59人。介護認定「要介護4及び5」で未入所の町民90人は特に切実だ。国の制度で病院「介護療養型ベッド」廃止は《受け皿》も必要。新設の課題は何か。

答 **住民ほけん課長** 新設は、利用者の需要、事業者要望、介護保険給付費の推移で総合的に判断する。

問 施設介護サービス費は減。「介護ベッド」廃止は半分に減る。主要産業60部門中、「介護」の「雇用誘発効果」は第1位で「公共事業」の2.7倍の雇用を生む。もっと「介護」を重視すべきだ。

答 **住民ほけん課長** 国の介護・福祉サービス分野の従事者は、H12年からH17年、約328万人と2倍近く増加した。検討課題と認識し研究していく。

問 松伏町第6期介護保険事業計画に「増設」計画を盛り込むべきだ。

答 **住民ほけん課長** 県と調整を図りながら検討する。

バドミントンのラインを改善する

問 12月議会で「改善したい」と答弁。予算にない。

答 **教育文化振興課長** コートのラインを利用して他の団体と調整した。その結果、現3面コートを残し、重ならないよう新たに4面コートを描く。





吉田 俊一 (日本共産党)

Q 旧金杉小学校の桜を「百年桜」に

A 地域のシンボルにすることは大事

問 施政方針では、老人センターを中心とする旧金杉小学校のエリアについて、旧体育館の撤去や県道入口の拡幅ほか一体管理を進めて利便性を向上することが表明されている。地域のいこいの場になれるように具体的な取組は。

これまで財政難を理由に放置された桜の木（ソメイヨシノ）は樹齢が80年から100年と推測されるものが3本もある。必要な手入れや管理を行い「百年桜」として地域のシンボルにしてはどうか。旧金杉小エリアをいこいの場にしてほしいとの住民要望に応え、地域活性化を考えていく点でも重要ではないか。

答 環境経済課長 貴重な樹木があることは認識している。どのような手入れや管理が必要か調査検討していく。

答 町長 宇都宮市城山小学校では校庭にある桜の木を孝子桜（こうこさくら）と名付け桜の木を中心に地域のみなさんがさまざまな行事を行い、市と地域の人が協力して地域活性化にも成功している。旧金杉小学校の桜も、そのように地域のシンボルにしていくことは大事。今後2・3年かけて

老人センターを中心とするエリアの整備をどのように進めていくか検討していく予定だが、桜の木が生きるように考えていきたい。



樹齢が80年～100年と思われる桜の大木。太い幹が折れた跡がいくつも残っている。

鈴木 勉 (新社会党)

Q 岩平バス停 路線変更で安全対策を

A 特別危険であると感じていません

問 茨城急行バスの吉川駅～松伏町エローラ線の岩平バス停（吉川駅→エローラ行き）は、降車スペースが狭く、県道を横断しなければならず大変危険である。バス利用者の安全と利便性向上のために、「中川の郷」周回コースに変更することが必要である。実現のためには、バス会社と交渉し公費助成・補助金を新設することで実現できると考えるが、町長の見解を問う。

答 町長 現路線は、事業者側（バス会社）が最適コースとして選んだと思う。町が支援（補助金支出）すると、他の事業とのバランスも考えなければならず、慎重に検討する必要がある。

問 町長は、常日頃「安心・安全なまち」を目標にしているが、この岩平バス停が大変危険な場所との認識を持っているのか。

答 町長 他のバス停と比較して、特別に危険だとは感じていません。

問 危険な場所とは考えてないなら、（岩平バス停を）何回見たのか。

答 町長 車で通った時、10回以上見ている。

問 乗降客が降りた時に、見たことがあるのか。

答 町長 （答弁なし）

問 今の町長の認識では、これ以上論議が前に進まない。安心安全な町の目標に矛盾してないのか。

答 町長 （答弁なし）



降車スペースが狭く、交通量の多い県道横断が大変危険な（下赤岩）岩平バス停（右上）